

平成30年度 第4回がまごおり協働まちづくり会議議事要旨

日時 平成30年10月29日（月）

午後2時15分～4時

場所 蒲郡市役所新館6階601会議室

1 開会

事務局より配布資料の確認、欠席及び途中退席者の報告

2 議題

(1) 平成30年度第3回議事要旨の確認について

- 事務局より第3回まちづくり会議議事要旨を説明
→事前送付の際に出た意見をもとに修正していることも報告
委員に意見を伺い、特に意見がなく承認された。

(2) 平成30年度蒲郡市市民企画公募まちづくり事業随時募集の結果について

- 事務局より「はじめの一步部門」随時募集の結果を報告
 - ・はじめの一步部門の応募はなし。
 - ・随時募集をどうするか。2月募集において、たくさん応募・採択されると予算上随時募集は実施しない。
 - ・いろいろな市民に利用してもらうため、2年前はじめの一步部門の予算枠を2倍に増やした。団体が思い立った時に申請できるよう、随時募集は継続してほしい。
 - ・ただし、制度に則って手続きをしていくと多くの準備を有するため、申請に至らないこともある。
 - ・今年は、6・8・10月で随時募集を実施した。
 - ・2月の審査会の状況によるところもある。
 - ・資金があるのであれば、実施して欲しい。3回はなくてもよいと思う。
 - ・お金があるから、随時募集を実施するののかということもある。市民の応募が少ないことが問題なのではないか。困り事が顕著に出て、同じように困った方が一緒に集まれて意見を集約できるとよい。
 - ・始まった当初は合格のハードルが低かった。
 - ・住民代表として参加しているが、会議に呼ばれてはじめて制度を知った。
 - ・まちづくりセンターでは、既存団体が多く、新規団体は少なく感じる。
 - ・あたらしい種をまくことができなかつたのが、申請団体減少の要因。
 - ・PRの仕方、見せ方、メディアの見せ方等やれることがたくさんある。
チラシの作り方は工夫が必要。
 - ・エントリーしやすくなればよい。
 - ・審査会、報告会も内輪だけのものになってしまっている。メディア等に取り上げていただけるようにしたい。

- ・団体にとっての魅力をアンケートとってもいいかも。
- ・人と人が話し合う機会が少なくなっている。そのために、「新しく団体を作ろう！」とはなるタイミングが減っている。
- ・かしこまった場ではなく、気軽に話せる雰囲気での交流が持てた方がよい。出来るだけ、交流可能な場を作ってほしい。

(3) 平成30年度採択団体事業実施状況について

■ユニバーサルマインド講座（夢おいかけてまちづくり同好会）

第1回 講師：丸山みゆきさん（聴覚障害者）

参加者：50名 障害ある方、ない方、介護をしている方、行政職員

第2回 講師：梅尾朱美さん（視覚障害者）

参加者：40名 障害ある方、ない方、手話通訳者

内容：健常者の心得だけでなく、障害のある方がどのように日常生活をおくっているのか。

- ・現在、福祉課が差別解消法の取り組みとして、外部に講師を依頼している。市内内部にもリーダーがおり、活躍の場所を作っていくことで他の可能性に繋がる。

■ゆらゆらパンダを作ろう（愛知子どもと本と文化の会 蒲郡支部）

日時：9月26日

参加者：16組の親子

内容：読み聞かせ、親のひざの上で遊ばせていた。紙皿で揺れるパンダのおもちゃを作成。

- ・市内にはたくさんの読み聞かせの会があるが、この会は「文化の会」でもあるので、昔話などを自分たちが勉強しながら子ども達に継承していこうと、取り入れている。また、会員はいろんな立場でおのおの読み聞かせをしているが、今回は、初めて共同で読み聞かせを実施した。

■親子で知ろう 蒲郡の美味しい魚たち（地魚普及実行委員会）

日時：10月27日

参加者：13組の親子

内容：愛知県の水産試験場の公開デー見学、三谷水産高校で耳石の採取、魚の調理を体験。父親の参加が多かったのが印象的だった。

- ・活動を初めてから団体が注目されてきたが、団体の会員が増えている訳ではないので、外部の反響と内部のモチベーションでは温度差がある。
- ・あんまり引っ張りまわさないでほしいというのが本音。
- ・参加する市民にとっては、どの団体がやっているのかは関係なく、事業の内容で参加するかを判断する。団体と関われそうな団体（特に全く関係ない団体）を、マッチングできるとよい。

(4) 助成金事業制度の要綱変更等について

- ・はじめの一步部門 助成金の交付を受けて3年未満の団体。継承団体は通算して3年。
- ・活動ステップ 3年以上の活動実績を有する団体
- ・助成金の交付額
活動ステップアップ部門 限度額を100万円とする。2回目の交付は3/4、3回目は1/2。
- ・申請用紙に審査項目毎に、アピールしたい点を記入。ただし、文字が多くなりすぎて読みづらさが増してしまった点もある。
- ・審査委員のうち3/4以上が基本項目の6割を採点し、かつ加点項目も含めた全体の6割を取れたら合格とする。
- ・はじめの一步部門の採点で、”チャレンジ性”を重視する。
- ・採点基準の見直し。基本項目のPR度を「話題性があるか」、加点項目の情報発信を「様々なメディアを利用して、多様な層に向けて情報発信しているのか」に変更。
- ・公益性の内容を全て同一点数に。

- ・“チャレンジする”というのを評価するのは難しい。それぞれチャレンジ度合は受け取り方が異なるため。ただし、多様なチャレンジを応援したい。
- ・活動ステップアップ部門は助成率を設け、出来るだけ自立できるように促していく。
- ・応募が少ない現状でありながら、門戸を狭めているように感じる。審査基準が厳しい。
- ・蒲郡市全体、蒲郡市みんなが、と言われる対象が大きすぎる。
→地域だけのことを考える、ではなくその後にも波及するよう考えてという意味では？
→そのとおりです。
- ・こういう活動もまちづくりだよ、というイメージが沸きやすいチラシなどを作って広報してほしい。過去を参考にするので、採択団体の情報を掲載希望。
- ・具体的な活動イメージを掲載してもよいが、それを参考に申請をして不採択となったら責任がとれない。それでは、やったことによってでた影響を掲載するのか。どちらが親しみやすいか。
→募集チラシを手にする人は、それぞれ頭の中に事業イメージがある。それを何度か話し合い、実現を近づいてきた時に、参考になればよい。
→まちづくりセミナーの講座で出てきたイメージを載せるのは？
→事業イメージは、日常生活をする上で“困ったこと”が起こった時に、改善案が浮かび、行動に移すのではないか。
→もうひとつは“楽しい事をしてみたい”という想定。
- ・具体的なイメージは、広報時点で掲載しないと意味が無い。募集要項に掲載しても、実際の活動がほぼまとまってから要綱を手にするため。
- ・継承団体は“3年”にこだわる意味が分からない。
→はじめの一步部門で3年取り組んだ団体が、活動ステップアップ部門にくるという想定でしかない。実績をもった人たちが入る場合もある。
- ・継承団体の定義が分からない。世代交代は？
- ・メンバーが変わらず、団体名だけ変更するとはじめの一步はずっと申請できるのか？

- ・この改正をすることによる、蒲郡がどう発展するのかが分からない。
- ・実行委員会形式のエントリーはだめなのか？
- ・狭まった捉え方をされかねない要綱の様式だと思う。
- ・はじめの一步部門は、気楽に誰でも出せるような制度がいい。
- ・すべての条件を網羅した募集要項の作成は、難しいのではないか。
- ・助成率の導入は、4年目以降全く助成金が無くなったときに活動が運営できない、となってしまうのではなく、やりながら自立できる術を学んでいくことを推奨する。
- ・参加費、教材費は徴収してもよい？
→よい。
- ・全く別の事業をスタートするなら、助成率は100%からでよいか。
→よい。
- ・団体を通常運営していく事務経費は計上できるのか？
→助成事業に必要であればよいが、通常運営費は計上できない。
- ・他の団体の助成率はどうなのか？
→豊橋市 1回目：2/3 2回目：1/2 3回目：1/3
豊川市 1回目：3/5 2回目：2/5 3回目：1/5
豊田市 上限20万 1回目：2/3 2回目：1/3
100%助成はほとんどない。上限50万円（津島市）
→基本的には、自主財源を獲得するなど工夫している。
→今年は、10件ぐらい申請あったが半分ぐらい不採択。
- ・他の補助金をとってよいのか。
→蒲郡市が財源となっていないものであれば可能。
- ・団体のフォローも手厚くしてほしい。書類の書き方、プレゼンの仕方等。
- ・3年間で継続する方法を模索しながら活動していくのが、団体にとって一番よい形。
- ・どのようにやっていくのか提示しながら、まちづくりセンターと協力していく。
- ・将来的には、審査員1人分の審査割合でもいいので市民投票の実施を検討してほしい。
いろいろ検討すべき点は多いが、とりあえずチャレンジすることが大事。
- ・検討してきたことは文書化することが大事。説明責任がある。
- ・なぜ平均点が導入できないのか。なぜ、審査員1人の意見に引っ張られるのか。
文章化が必要。まちづくりセンターの意見として、平均点を検討していただきたい。
- ・全体の改定は、まちづくりの考え方を転換しているものだと思う。以前と比較するのではなく、これから持続的に継続していくために応援していく制度。
- ・要綱の文言は検討していく。

(5) モデル事業について

- 団体向け育成講座を開催 9月2日（日）に実施
→新しい方が来た時の受け入れ方、PRの仕方を学んだ
- 人材育成の講座開催を報告
→委員の方に参加者募集の協力を依頼

■公共活動の利活用事業

→実行委員会の開催を告知

→図書館へ本を貸していただけないか依頼

→承諾いただいた。

・行政と市民が一緒になってやる。実行委員会を組む。

次回開催について

事務局より次回日程を提案

12月3日（月） 午後2時15分～ 601会議室 で決定